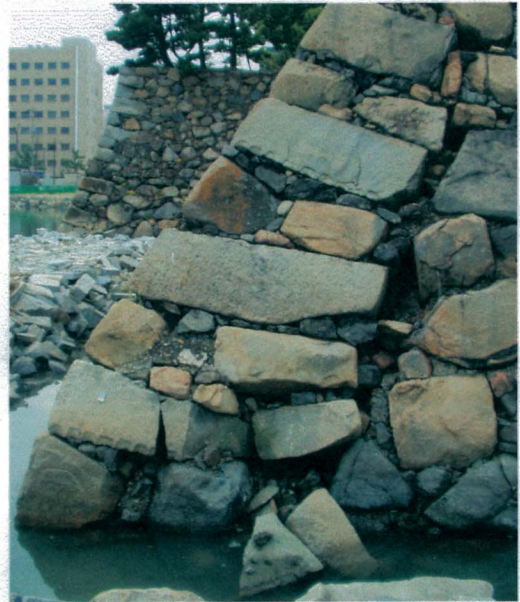


# 第2回 高松城跡天守台見学会

～ 穴蔵入口を見よう ～

## 1. 調査概要

調査地 史跡高松城跡天守台及び本丸の一部  
 調査期間 平成18年11月1日～19年3月30日  
 調査面積 約778㎡  
 調査主体 高松市教育委員会



天守台石垣破損状況

## 2. 発掘調査に至る経緯

高松城は築城から420年が経過しており、石材の劣化や度重なる地震により石垣の各所でハラミ・ズレ・ヌケといった現象が起こっています。特に、天守台の石垣が最も危険であるため、平成19年度から解体修理を行う予定です。解体修理に際しては、天守の遺構にも影響が及ぶことから、玉藻廟の解体及び発掘調査を行うことになりました。

## 3. 発掘調査の成果

### ①穴蔵入口

幅約3m、高さ約2.5mの入口が見つかりました。明治35年の玉藻廟建設に伴い石で塞がれたと考えられます。入口の前面では階段も見つかりました。

### ②刻印石

穴蔵入口の北側上部の石垣石材で見つかりました。長方形とひらがなの「ち」「り」のような刻印です。

### ③墨書

穴蔵入口の北側下部の石垣石材の2箇所で見つかりました。左側の石材には縦書きを横にした状態で「柵天守九尺五寸下水」と書かれています。右側の石材は縦書きで「平元」の可能性があります。書かれた時代や意味については現在調査中です。

### ④穴蔵

天守の1階（地下室）の上面が見つかりました。その規模は、東西約14m×南北約12.5mで、深さは入口部分と同じ約2.5mと推定されます。江戸時代の文献『小神野筆帖』によると、東西6間（11.82m）×南北5間（9.85m）の規模とされており、文献より一回り大きい状態で検出されましたが、穴蔵の底まで掘らなければ、文献が正しいかどうかは判断できません。

### ⑤礎石

天守2階の柱を支える礎石が4石見つかりました。また、礎石を抜き取ったと見られる穴も数箇所で見つかりました。今後穴蔵の床面まで掘り下げると、1階の柱を支える礎石の発見が期待されます。

### ⑥玉藻廟基礎

玉藻廟の基礎は予想外に深く、穴蔵の床面付近から立ち上げていたことが分かりました。このため、明治17年の天守解体から明治35年の玉藻廟建築までは穴蔵が開いた状態だった可能性が考えられます。

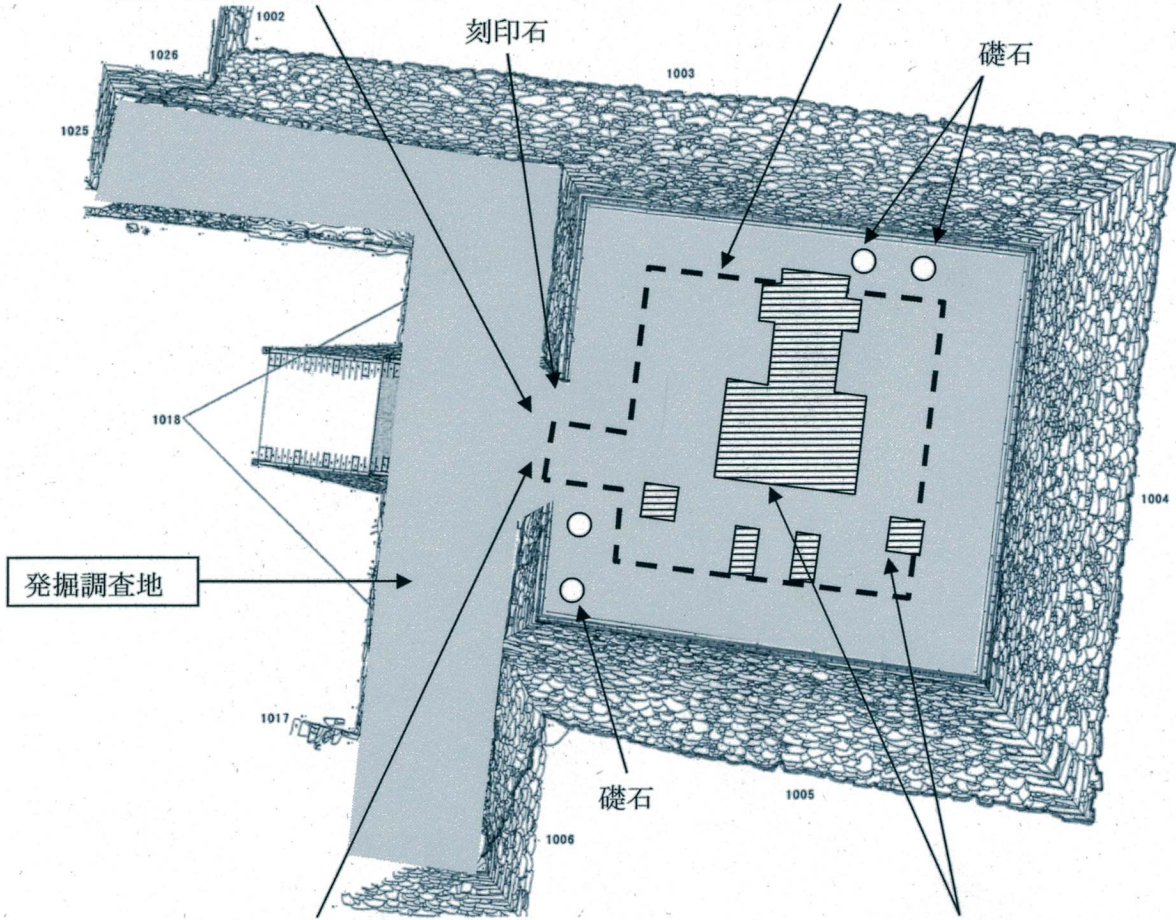


玉藻廟解体状況



墨書「柵天守九尺五寸下水」

穴蔵 (東西約 14m, 南北約 12.5m)



発掘調査地

穴蔵入口 (幅約 3m, 深さ約 2.5m)

玉藻廟基礎

